

噴火浅根の火山活動解説資料（令和8年6月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

15日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、少量の変色水もしくはガスとみられる青白色の変色域が認められました（図2）。

海上保安庁及び海上自衛隊によるこれまでの観測によると、噴火浅根付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています（図3）。1930年から1945年にかけては、1年に2～3回程度海底噴火が確認されていました。

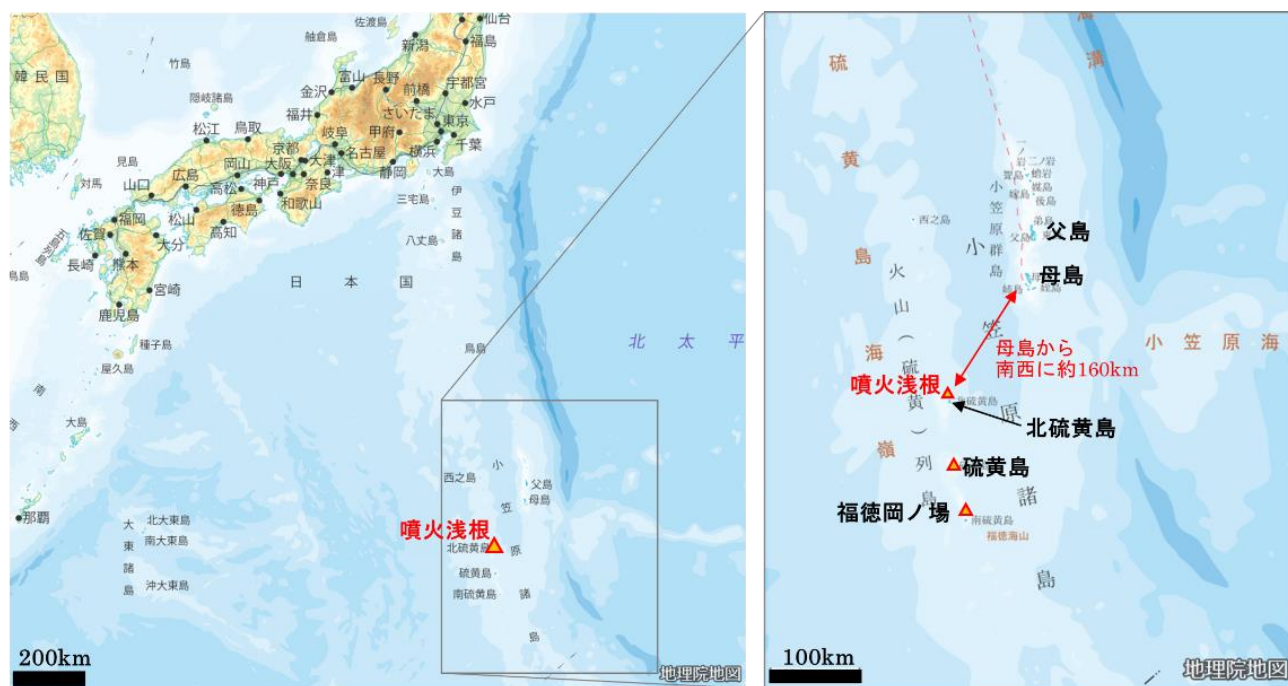


図1 噴火浅根 位置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は、海上保安庁及び海上自衛隊のデータを利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています。

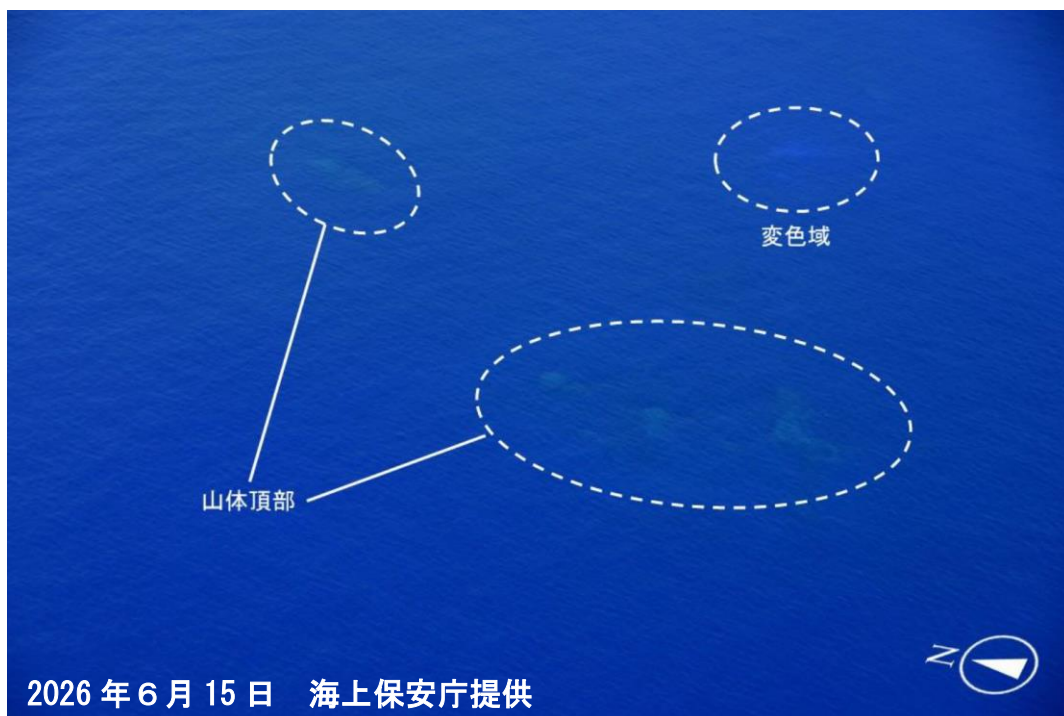


図2 噴火浅根 15日の状況

- ・15日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、少量の変色水もしくはガスとみられる青白色の変色域が認められました。

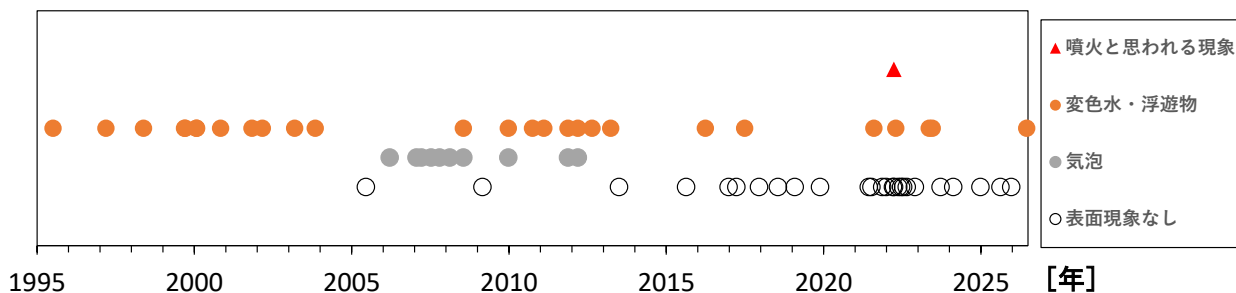


図3 噴火浅根 1995年以降の活動状況

シンボルがあるタイミングで観測が行われています。▲は噴火と思われる現象（気象衛星ひまわりによる観測）、●は変色水及び浮遊物の分布が認められた観測、●は気泡の湧出が認められた観測、○は変色水等を含め特段の表面現象が認められなかった観測を示します。海上保安庁及び海上自衛隊の観測による。

- ・2022年3月27日から翌28日にかけて噴煙と思われる雲域が観測されて以降、噴火は認められていません。
- ・噴火浅根付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されています。